

第1章

総論

第1章 総論

I 「交通ビジョン」策定の趣旨

本県では、2017（平成 29）年3月に、「福岡県総合計画」の部門計画として、「福岡県交通ビジョン 2017」（以下「交通ビジョン 2017」という。）を策定しました。

「交通ビジョン 2017」策定後、新北九州空港道路や福岡高速6号線等の開通、福岡空港・北九州空港の機能強化等、本県の交通基盤整備は着実に進展しました。

一方で、「交通ビジョン 2017」策定後も本県の交通を取り巻く状況は大きく変化しています。

グローバル化が進展しており、2019（令和元）年には「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」の開催地の一つに選ばれたほか、今後も様々な国際大会が予定されています。2017（平成 29）年7月に発生した九州北部豪雨は、交通インフラに甚大な被害をもたらしました。また、デジタル革命の本格化やグリーン社会の実現に向けた動きも、交通に大きな影響を及ぼしています。

加えて、2020（令和2）年以降、新型コロナウイルス感染症が拡大し、その脅威が継続する中で、人々の生命や生活のみならず、社会経済活動のあり方や人々の行動・意識・価値観にまで多大な影響を及ぼすと同時に、コロナ禍においても、交通事業は生活に不可欠なサービスであることが再認識されました。

「福岡県交通ビジョン 2022」（以下「交通ビジョン 2022」という。）は、こうした、これまでの成果や交通を取り巻く状況の変化を踏まえ、行政機関のみならず、県民、交通事業者等あらゆる関係者が協働し、交通に関する諸施策を推進するために策定するものです。

II 計画の性格

「福岡県総合計画」の部門計画として策定し、時代の変化を踏まえた4つの「基本方針」をもとに、取り組むべき交通施策の方向性を示すものです。

III 計画期間

「福岡県総合計画」の計画期間との整合を図り、2022（令和4）年度から2026（令和8）年度までの5年間とします。

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
交通 ビジョン	交通ビジョン 2017					交通ビジョン 2022				

IV 計画の構成

第1章 総論

I 「交通ビジョン」策定の趣旨

II 計画の性格

III 計画期間

IV 計画の構成

第2章 これまでの成果と交通を取り巻く状況の変化

I これまでの成果

II 交通を取り巻く状況の変化

- 1 グローバル化の進展
- 2 変わりゆく地域公共交通
- 3 激甚化、頻発化する自然災害とインフラ老朽化の加速
- 4 技術革新に伴う交通環境の変化
- 5 SDGs、脱炭素社会

III 交通に関する県民意識

第3章 展開する施策

基本方針1 世界を視野に九州・山口の一体的発展を支える交通ネットワークをつくる

- 1 福岡空港、北九州空港の役割分担と相互補完の推進
- 2 国際貿易、国際観光を担うターミナル港湾の整備
- 3 空港、港湾と県内各地域を結ぶネットワークの強化
- 4 都市と都市、都市と地域を結ぶ交通網の充実

基本方針2 未来を見据え、「デジタル」「グリーン」な交通を展開する

- 1 交通分野のデジタル化の推進
- 2 地球環境負荷の少ないグリーンな交通の実現

基本方針3 住み慣れたところで「働く」「暮らす」「育てる」ことができる持続可能な交通をつくる

- 1 地域公共交通の維持・確保
- 2 誰もが移動しやすい交通環境の推進
- 3 まちづくりと連携した交通環境の整備

基本方針4 強靱で安全安心な交通を確保する

- 1 災害からの早期復旧の実現
- 2 大規模災害に備えた交通基盤の構築
- 3 交通施設の適切な維持管理の推進
- 4 安全で安心して暮らすための交通安全対策、飲酒運転撲滅対策の推進

第4章 施策の推進方策

I 市町村との連携

II 九州・山口各県との連携

III 交通事業者との連携

IV 成果の検証と新たな施策の検討（施策目標の設定：22件）